

コミュニケーションの苦手な学生・若者のキャリア支援と社会参加

NPO法人札幌チャレンジド 理事長 加納尚明 氏

本日は卓話の機会をいただきましてありがとうございます。札幌チャレンジドは、自立を目指す障がいのある人が、「ITでマザル、ハタラク、拓き合う」社会を創ることを理念に2000年から活動している団体です。今日は、札幌チャレンジドが取り組んでいることの概要と運営している中で大切にしている考え方をお話しさせていただきます。

札幌チャレンジドは、NPO法人ですから社会課題解決が目的ですが、社会課題を解決していく方法として、事業を興して、お金の循環を生み出しながら解決していく事業型NPOを目指して少しずつ社会課題解決の分野を広げて来ました。設立から2年間は、専従職員は無く、2002年から少しずつ増えて現在は18名となっています。

事業内容としましては、障がいのある人を対象としたパソコン講習から始まり、2006年から障がいのある人を雇用して企業から受託したデータ入力業務に従事する就労継続支援サービスを始めました。4人からスタートし、現在では24人の方を雇用しています。

2011年からは、障がいのある人の就職支援を始めました。2年間かけてパソコン講習やコミュニケーション講習などを行い人材育成し、企業に就職します。毎年5名前後が就職しています。特筆すべきが就職後の3年定着率が約85%と極めて高いことです。

2017年からは、障がいのある中高生にほぼマンツーマンでパソコンを教える放課後等デイサービスを始めました。パソコンスキルを身に付けることで「自信」を身に付けることが目的です。2023年からはキャリアデザインコースを設けてコミュニケーション研修やパソコンの資格取得など生徒たちのキャリアデザインに取り組んでいます。

ここからは運営の考え方をお話しします。一言で言えば「人を大切にする」ことです。就労継続支援サービスで働いている利用者には、「安心して働ける職場であること」「安心して長く働いてもらいたい」と考えています。個々の利用者の障がい特性に合わせた働き方を実現しています。また、定期通院有給休暇制度などの

独自の制度も設けています。

職員には、「ライフステージに柔軟に寄り添う組織」でありたいといつも話しています。年代は、70代から30代。産休・育休を取得した社員も4名います。家庭の事情や本人の体力の事情など個々の職員のライフステージの変化に合わせて働ける職場を実現しています。また、女性特有の体調に配慮した休暇制度や職員人材養成補助規程など独自の制度化も行い、働きやすい職場、人としての成長を応援する職場創りに取り組んでいます。これらの制度は、働く人へのメッセージだと思っています。常に言い続けること、伝え続けることが大切だと思います。そして、柔軟性こそが小さな組織が生き残って行くための要件であり武器であると考えています。

最後に、2023年から新たに始めた取り組みについてです。今、どこの大学にもコミュニケーションが苦手なことが主な要因として就職活動に躓き、就職を諦めて卒業後の行き場が無い学生が3%~5%います。このような学生を対象に就職活動の支援を行っています。何度も面談し、自己理解を深め、様々な研修を行い、就職に結びつけています。ぜひ未来ある若者の将来を応援する為に、職場体験(インターンシップ)へのご協力をお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。今後とも、よろしく願いいたします。



■本日のロータリーソング

いざ友よ

2025-2026年度
国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長:フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう